

ウィルダネスプログラムはプロスポーツに貢献できるのか

How Does Wilderness Program Contribute to the Professional Sports?

○稲垣尊仁 (東京大学) 小松彩季 (上智大学) 棚橋志朗 (順天堂大学) 谷中理矩 (千葉大学) 大田洋輔 (びわこ成蹊スポーツ大学) 大杉夏葉 (大阪体育大学) カラギアニス・マーシャル 謙太郎 (大阪体育大学) 白石稜 (大阪体育大学) 伊原久美子 (大阪体育大学) 岡村泰斗 (backcountry classroom Inc)

キーワード: ウィルダネス、プロスポーツ、Experiential Education Evaluation Form Means-End、小豆島

1. ファジアーノ岡山の試み

近年、Jリーグをはじめとするプロスポーツチームで、ASE (Action Socialization Experience) を用いた、チーム強化の取り組みが多く報告されている。J2に所属するファジアーノ岡山では、2010年に影山監督就任後、選手のメンタル面の強化のために、短期間のASEでは、選手間の人間関係の向上は見られるが、個の根本的な強化には限界を感じたことから、冬季のウィルダネスプログラムを取り入れたキャンプを開始した。

2010年1月に

大分県九重連山にて1泊2日の雪山登山、2011、2012年1月には岡山県蒜山高原にて、2泊3日の雪山登山を行った。さらに、2013年1月には期間

を3泊4日に拡大し、香川県小豆島にてキャンプを実施した。また、この間の順位も2010年17位、2011年13位、2012年8位と向上し、2013年5月現在では、5位につけている。

本報告は、2013ファジアーノ岡山ウィンターキャンプの実践報告をするとともに、Means-End理論を応用したExperiential Education Evaluation Form: 3E Form (Okamura, 2013) を用いた、効果分析を行

い、ウィルダネスプログラムが今後プロスポーツチームにどのような体験を提供すべきか検討することを目的とした。

2. 2013ファジアーノ岡山ウィンターキャンプ

2013年1月17日~1月20日に、香川県小豆島にて3泊4日のウィルダネスプログラムを含むキャンプを行った。選手は、トップ、サテライトの選手を混成した、6~7名/班、6班編制、合計38名の選手であった。キャンプ指導は、野外教育を専門とする

大学生と、ファジアーノ岡山のコーチが、各1名それぞれの班の指導にあたった。主なプログラムは図1に示した通りであった。

活動は大きく3つの野外活動と、4つの学習段階で構

	1月17日	1月18日	1月19日	1月20日
600	新岡山港発	起床・朝食	星ヶ城御来光登山	選択サイクリング選路
700	土庄港着		寒霞溪ハイキング	ファイナル遠征
800	ガイドダンス・遠征準備	クライミングコンペ	サイクリング選路	
900		ハイキングスキル		
1000	オーキッドホテル発		オートビレッジ着	
1100	サイクリング選路		入浴・休憩	
1200	サイクリングスキル	登山ガイドダンス	ファイナル遠征ガイドダンス	
1300	ナビゲーションスキル	寒霞溪登山発	グループ再編	
1400			選択サイクリング選路	
1500			ファイナル遠征	
1600	オートビレッジYOSHIDA			ふりかえりの段階
1700	テント設置・夕食			オーキッドホテル着
1800				入浴・食事
1900		星ヶ城駐車場着	小豆島ふるさと村着	ふりかえり・解散
2000	ふりかえり	雪中ビバーク	ビバーク	土庄港発
2100				新岡山港着

図1. 2013ファジアーノ岡山ウィンターキャンププログラム

成された。サイクリング選路とは最大600mの標高差を含む小豆島88霊場をMTBでまわるものであった。ロッククライミングは、小豆島吉田地区の岩場において、選手どうしてビレーを行い、難易度別の得点を競い合うコンペ形式で行った。寒霞溪登山は標高差600mのオフトレイル登山と山中でビバーク、御来光登山を含むものであった。登山では行程が遅れ夜間登山を余儀なくされた。

